

令和8年度
高槻市農業委員会
事業計画

令和8年4月

高槻市農業委員会

基本方針

本計画は、「農業委員会による最適化活動の推進等について（令和4年2月2日付け3経営第2584号農林水産省経営局長通知）」に基づき、農地等の利用の最適化の推進に係る活動（以下「最適化活動」という。）について目標を定め、公表するものである。

近年の我が国の農業を取り巻く情勢は、中東問題などに端を発した世界情勢の変動を受け、生産資材や燃料費の高騰など厳しい状況に直面しており、食料安全保障上のリスクもさらなる高まりをみせている。

本市の主要な作物である米の栽培でもこれらの影響を受け、取引価格は上昇の一途をたどり、高い価格水準で推移しているため、政府の対応とその動向は、消費者はもとより農業従事者にとっても大きな関心事となっている。

そのような中、国は「平時から国民一人一人の食料安全保障」や「人口減少下でも持続可能で強固な食料供給基盤」の確立と、「環境等に配慮した持続可能な農業・食品産業」への転換を方向性として「農政の憲法」とされる「食料・農業・農村基本法」を令和6年5月29日に改正・施行。合わせて「農業経営基盤強化促進法」を改正し、農業委員会の協力のもと、地域が目指すべき将来像を描く農地貸借におけるベースマップにあたる「地域計画」の策定を市町村に義務付けした。それを受け本市においては、市街化調整区域の全37地区で令和7年3月31日にそれぞれ策定がなされている。

今後、市には「地域計画」を策定する際に洗い出し・整理された、それぞれの地域が抱える諸問題の解決のため、さらなるブラッシュアップの実施・具体化が求められている。

農業委員会は策定された「地域計画」の具現化のため、市や関係機関、地域の農業者と連携し、これまでも農業委員会が行ってきた、地域に根ざした「担い手への農地の集積」・「遊休農地の解消」・「新規参入の促進」といった農地利用のいわゆる「最適化活動」を実施していくため、以下に目標を掲げ、引き続き優良農地の保全・確保や持続可能な農業経営に向けた農業振興に邁進していくものとする。

令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 大阪府
 農業委員会名： 高槻市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和8年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和5年7月20日

任期満了年月日 令和8年7月19日

| | 農業委員 | |
|------------|------|----|
| | 定数 | 実数 |
| 農業委員数 | 14 | 14 |
| 認定農業者 | — | 2 |
| 認定農業者に準ずる者 | — | 9 |
| 女性 | — | 1 |
| 40代以下 | — | 0 |
| 中立委員 | — | 3 |

| | 定数 | 実数 | 担当区域数 |
|-------------|----|----|-------|
| 農地利用最適化推進委員 | 7 | 7 | 7 |

2 農家・農地等の概要

| | 経営体数 |
|--------|-------|
| 総農家数 | 1,213 |
| 農業経営体数 | 435 |

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

| | 農業者数(人) |
|-----------|---------|
| 基幹的農業従事者数 | 436 |
| 女性 | 149 |
| 40代以下 | 24 |

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

| | 経営体数(経営体) |
|-----------|-----------|
| 認定農業者 | 9 |
| 基本構想水準到達者 | 1 |
| 認定新規就農者 | 4 |
| 農業参入法人 | 14 |
| 集落営農経営 | 0 |
| 特定農業団体 | 0 |
| 集落営農組織 | 0 |

※農業委員会調べ

単位:ha

| | 田 | 畑 | 畑 | | | 計 |
|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | 普通畑 | 樹園地 | 牧草畑 | |
| 耕地面積 | 529 | 37 | 37 | 0 | 0 | 566 |

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

| | | | |
|----|------------------------------|--------------|------------|
| 現状 | 管内の農地面積(A) | これまでの集積面積(B) | 集積率(B)/(A) |
| | 566 ha | 11.45 ha | 2.02 % |
| 課題 | 農業従事者の減少や高齢化等により、認定農業者の確保が困難 | | |

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

| | | | |
|------------------|----------|-----------------------------|--------|
| 農地の集積の目標年度 | 令和15年度 | 集積率 | 37 % |
| 今年度の新規集積面積 | 0.2 ha | 農地面積(C) | 566 ha |
| 今年度末の集積面積(累計)(D) | 11.65 ha | (目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C) | 2.06 % |

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

| | | | |
|----|--|--------------|--------------|
| 現状 | 直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況 | | |
| | 1号遊休農地面積 | うち緑区分の遊休農地面積 | うち黄区分の遊休農地面積 |
| | 8.04 ha | 5.10 ha | 2.94 ha |
| 課題 | 高齢化による農業従事者の減少に対して、次世代の担い手を確保していくことが必要 | | |

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

| | |
|----------------------------|----------|
| 令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積 | 4.27 ha |
| 緑区分の遊休農地の解消目標面積 | 0.854 ha |

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

| | |
|--------------------------|---------|
| 令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地 | 3.47 ha |
|--------------------------|---------|

| | |
|-------------------------|----------------------------------|
| 黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針 | 5年間で関係機関及び団体と協議・連携し、解消に向けた取組みを行う |
|-------------------------|----------------------------------|

イ 新規発生遊休農地の解消

| | |
|---------------------------|---------|
| 前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積 | 0.89 ha |
|---------------------------|---------|

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

| | | | |
|----|-----------------------------|------------|------------|
| 現状 | 令和5年度新規参入者 | 令和6年度新規参入者 | 令和7年度新規参入者 |
| | 5 経営体 | 11 経営体 | 10 経営体 |
| | 1.94 ha | 1.68 ha | 1.38 ha |
| 課題 | 農地所有者と新規就農希望者の貸借に係る条件に乖離がある | | |

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

| | | | | |
|--------------------------------------|---------|---------|--------|--------|
| 権利移動面積 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 平均 |
| | 10.9 ha | 10.4 ha | 3.8 ha | 8.4 ha |
| 新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積 | | | 0.8 ha | |

※1 過去3年間の権利移動面積について、令和5年度及び令和6年度は農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入。なお、令和7年度は「農地法による権利の設定又は移転が行われた農地の面積」と「促進計画により農地中間管理機構から受け手に権利設定された面積」の合計としてください。

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

| | | | |
|------------|-------|-----------------|------|
| 1人当たりの活動日数 | 8 日/月 | 最適化活動を行う農業委員の人数 | 10 人 |
| | | 農地利用最適化推進委員の人数 | 7 人 |

(2)活動強化月間の設定目標

| 活動強化月間の設定回数 | 3 回 | |
|-------------|-------|------------------------------|
| 取組時期 | 取組項目 | 強化月間の内容 |
| 9月 | ①・② | 遊休農地の解消・未然防止を図るための農地パトロールの実施 |
| 11月 | ③ | 市農林業祭等における就農相談コーナーの設置 |
| 2月 | ①・②・③ | 農地利用意向調査等を受けた貸付希望農地の情報把握 |
| | | |
| | | |

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

| | | | |
|---------------|--|------|-------------|
| 新規参入相談会への参加回数 | 1 回 | | |
| 開催時期 | 11月 | 相談会名 | 営農・就農相談会の設置 |
| 参加者数 | 20名 | 開催場所 | 市農林業祭 |
| 相談会の内容 | 新規就農希望者との面談を通じ、新規就農者のニーズを把握し、それぞれが望む就農に向けて助言する | | |

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)